



特集 その後どのように使われていますか？

小さな茶室「つぶ庵」



「つぶ庵」外観

特集 その後どのように使われていますか？

小さな茶室「つぶ庵」

東京都町田市 | 茶室「つぶ庵」(建築家とつくる居場所) | T邸



1

ストーリー

今回ご紹介するのは、ご自宅の敷地内に建てられた小さな茶室「つぶ庵」。亭主であるT様にこの場所をつくったキッカケや使い心地についてお話を伺いました。

日本の伝統文化に関するものが好きで、20代の頃から茶道や華道を習っていたというT様。忙しさの中で一旦は休止していたものの、自由な発想でお茶をされる先生との出会いから「自分のやりたいお茶」について考えるようになり、稽古を再開されたといいます。「お茶に限らず、私は華道やお料理も一緒にやっていきたいんですよ。大きな目標は茶事[※]を習慣的にすること。床の間にお花を活けたり懐石料理をお出ししたり……自宅内のスペースでは難しくても、離れにお茶室を設ければ、それらが全部実現できる、と思ったんです」とT様。茶室の計画はそんな思いからスタートしました。

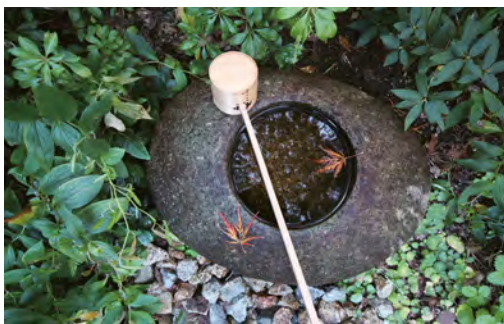
※茶事…茶の湯において懐石、濃茶、薄茶をもてなす正式な茶会のこと

2

とくべつな時間

茶室をつくるにあたり、お仕事でつながりのあった家具デザイナーの小泉誠さんに相談したところ、ちょうど「舎庫」という車一台分ほどのスペースに建てられる小さな建築のデザインを手掛けているところでした。自宅の敷地内にもう一つの豊かな居場所を設けるというコンセプトとも重なる部分があったことから、舎庫をベースとしたデザインに。サハラ砂漠の砂の色をイメージした床の間、杉材をふんだんに用いた壁や天井、やわらかな光をとりいれるスタンドグラス、そして造園家の小林賢二さんによる石と植栽を組み合わせた趣のある庭づくり——。様々な魅力が詰まった小さな居場所が生まれました。

完成から8ヶ月ほど経った取材当日、T様は凜とした着物姿で迎えてくださいました。朝、庭で摘んで生けた瑞々しいピナンカズラと寒菊を床の間に眺めながら、お抹茶とお菓子をいただいたり、とてもゆっくりとしたひと時を過ごしました。日常とは違う、とくべつな時間の流れを感じます。



茶室の前にある石の水鉢



スタンドグラスの光がもれる(右側) 茶室内



点てて頂いた抹茶



床の間に生けられたピナンカズラと寒菊



開口から見える庭の景色



スタンドグラスの採光部

3 つぶ庵の魅力



▶ 素敵なひとになれる場所へ

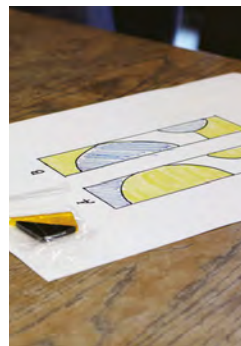
「お茶だけではなく、出汁やお料理、お茶の歴史を学んだり、ともに考えながら知識をひろげてゆく。ここをそんな場にしたい」と、ちょうど数日前からつぶ庵でお茶の研究会をはじめられたそうです。お茶に加えお花の指導をすることもあるというT様は、ご自身もそれらを通してモノとの向き合い方や精進し続ける大事さを学んだといいます。「来てくれた方が自分なりの価値を見つけて、素敵なひとになっていくことのお手伝い如果能したら」と笑顔で話してくださいました。



ひとつひとつ 手仕事で



- 1…加工場で製作中のつぶ庵。
- 2…ステンドガラスのデザイン案。
- 3…製作担当の益子大工さん。
- 4…栈木を使った躰口の戸のデザインを検討するT様と小泉さん。



一見シンプルな外観のつぶ庵ですが、建物のちょっとした角度や左官壁の絶妙な色味など、小泉さんや大工さん、職人さんたちの技術と工夫の結晶といえる空間に。T様ご自身も躰口の戸やステンドガラスのデザインを検討したりと、みんなのアイデアや手仕事盛り込まれた建物です。

取材後記

「つぶ庵」の持つ独特の空気感。それは建物や庭のデザインはもちろん、T様の美しい所作や、丁寧なおもてなしから生まれるものでした。仕事やプライベートなど日々追われることが多い現代の私たちの生活ですが、人やモノと向き合ってじっくりと考える…そんな時間を大切にしたいと思ったひと時でした。(記: 広報 吉川)



設計: Koizumi Studio <http://www.koizumi-studio.jp/?studio>

造園: 小林賢二アトリエ <https://kobayashi-atelier.com/>

施工: 相羽建設 / 撮影取材・編集: 伊藤・吉川 ainoha/バックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>



特集 その後どのように暮らしていますか？

季節ごとの家時間を楽しむ暮らし

東京都小平市 | 木造一戸建て(建築家と建てる家) | T邸(ご夫婦)



庭の点検をする造園家 小林賢二さん

1 ストーリー

今回で紹介するのは、ご夫婦二人で仲良く暮らされているT様のお住まい。もともとこの場所に建っていた実家が老朽化していたため、ご両親とリフォームや建替えの検討をはじめたことをキッカケに、T様ご夫婦も自分たちの家づくりを考え始めるようになりました。「将来的に親の近くに住めたら安心と感じていたこともあり、できればここに2軒建てられたら良いと考えていました」とご主人。そして自身の好きな家の雰囲気の本屋さんやwebで調べていたところ『i-works project』の家づくりに興味を持ち、近隣の施工工務店である相羽建設のモデルハウス(伊礼智さん設計)へ見学に訪れたといいます。「モデルハウスでは宿泊体験もできて、こんな素敵な暮らしがあるんだ!」と衝撃を受けられたようでした。



外観

2

家時間を楽しむ

「当時は伊礼さんのことをあまり知らなかったのですが、担当スタッフの遠藤さんにいろいろお話をお伺いする中で、家づくりの考え方や作風にとっても魅力を感じ、その想いを遠藤さんにお伝えしたところ、なんとご紹介頂けたんです！建築家に家を頼むなんて、夢のまた夢だと思っていたので嬉しかったです」と笑顔でご主人。また、幼い頃からたくさんの庭の樹々や緑に囲まれて育ったというご夫婦。「家が小さくても良いので、窓から眺められる庭がほしいと思っていました。ちょうどつむじのモデルハウスで造園家の小林賢二さんの手掛けた庭を見てすごく気に入り、ぜひお願いしたいなって」。そこからT様ご夫婦の住まい設計を伊礼さん、ご両親の住まい設計を相羽建設、両家をつなぐ造園を小林さんという共同計画により完成した二つの住まい。

暮らしはじめてから2年。休みの日はゆっくりとお茶をしたり、2階リビングのデッキに腰かけながら四季折々の庭の景色を楽しむ……。なにげない、けれども特別な家時間。



▲ 今でも大事に飾っているプラン提案時の模型



2階デッキから外の景色を眺めるご夫婦



ご主人お手製の化粧箱



こだわりのハンドドリッブコーヒー



デッキとつながる1階和室



顔の見える対面キッチン

3 暮らしを楽しむ



▶ シンプルに必要なものだけ

週末には共通の趣味である山登りにいくことが多いというT様ご夫婦。また自転車で山を走ったり、薪ストーブを楽しんだりと多趣味。その分道具もたくさん持っていたため、収納場所を設けることが家づくりのひとつのポイントでした。「収納スペースや庭を広くとっていたこともあり、居室はコンパクトになりましたが、居心地の良い場所がいっぱいあるんです。小上がりの畳や1階のデッキスペースでご飯を食べることもあったり、この家を無駄なくフル活用できてます」とニコリ。



見て・食べて 楽しむ庭

- 1…きれいに紅葉した植栽。
- 2…BBQも楽しめるウッドデッキ。
- 3…ご主人お手製の花差し。
- 4…一緒に取材に同行してくださった造園家の小林賢二さん。



お二人の好きな山にあるような植栽イメージで小林さんが手掛けた造園。「まちの風景として道行く人たちにも楽しんでいただけたら」というT様の想いから、塀などは設けず通りに開いたお庭へ。ワイルドストロベリーやミツバなど普段の食卓でも楽しめる植物も植えられています。

取材後記

山登りが好きなT様ご夫婦。実はお二人の出会いも山だっというなんと素敵なエピソードも！そんな思い出の場所でもある、八ヶ岳の赤岳山頂からとった富士山の写真が室内に飾っており、ほっこりした気持ちになりました。現在は日本百名山制覇を目指して全国各地の山を車でまわっているそうです。現在81箇所目ということであと少し！応援しております！（記：広報 吉川）



赤岳からの風景写真



設計：伊礼智設計室 <https://irei.exblog.jp/>
 造園：小林賢二アトリエ <https://kobayashi-atelier.com/>
 施工：相羽建設／撮影取材・編集：伊藤・吉川・小林 <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>





特集 その後どのように暮らしていますか？

トトロの森を望む家





特集 その後どのように暮らしていますか？

トトロの森を望む家

東京都東村山市 | 木造一戸建て | N邸(ご夫婦)

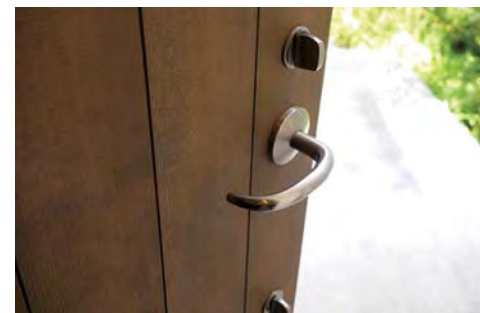


1

ストーリー

"トトロの森"として親しまれる自然豊かな八国山緑地の麓に佇む、N様の住まい。時折聞こえる小鳥たちの澄んだ鳴き声や、風に吹かれた樹々のサワサワとした音にとっても穏やかな気持ちになる場所です。こちらに住みはじめて1年と半年ほどになるN様ご夫婦に、現在の暮らしぶりや当時の家づくりについてお話を伺いました。

「家づくりは結婚をきっかけに考えはじめました。最初は中央線沿線の交通や買い物などの利便性が良く、緑に囲まれた場所が希望でしたが、思いのほか土地の値段が高くて求める物件が見つからなかったんです。そんな中次第に魅力を感じるようになったのが、家づくりの打ち合わせでよく訪れていた東村山でした。」



▲リビングの延長として景色を楽しむ奥行のあるバルコニー

2 景色を活かした空間

「打合せが終わった後、近くを散歩してみると小さなカフェやきれいな用水路があって、自然がいっぱいの良い場所だあって。案外このまちが自分たちの条件を満たしていることに気がついたんです」と笑顔で語るご主人。

その後、目の前に緑の森が広がるこちらの土地が見つかりました。プランの打合せを重ねながら住まいのイメージを考えていく中で「せっかくならこの景色を最大限に活かした家にしたい」——そんなN様の想いから、ゆっ

たりと外を眺められるベンチがついた、大きな引込み窓のある2階リビングの家が完成しました。室内から見える窓辺の様子は、まるで森の緑を切り取った一枚の美しい絵を眺めているような、そんな不思議な気分になります。

3 暮らしの工夫



1



2



3



4

1: 窓辺のベンチの下は座布団もしまえる収納スペースに。2: 籠り感と清潔感のあるキッチン。3: 磁石と画鋏で壁にくっつく可愛い花差し。4: 猫用の足場。飾り棚としても活用できます。



猫用の小さな通り道

オッドアイが可愛い猫のマロちゃん



▲ みんなが過ごしやすい家

2匹の猫ちゃんがいるN様の住まい。「猫たちにとっても住みやすい家になるように」と、壁に通り抜けられる小さな穴やジャンプしながら移動できる足場がとりつけられていました。また、キッチンはリビングとつながりつつもあまりオープンにはせず、落ち着きのある籠り感に。

周囲の景色に 馴染んだ庭

華やかな花や実よりも、雑木や石などの自然体な素材をメインにして造園家の小林賢二さんと一緒に考えたというお庭。「ちょっと手間がかかるけれど、お庭がこんなに楽しいとは思わなかったです。最近では自分でお花やハーブを植えて育ててますよ」とにっこり笑顔の奥様。



1



2



3



4

1: 石と緑が程よいバランスの玄関アプローチ。2: お庭のジューンベリーの実から作ったジャム。3: 既存の外周コンクリートを利用して枝垂れさせたブルーパシフィック。4: 植栽に囲まれた外観。

取材後記

担当スタッフは土地探しでは営業部の栗林、プランを考える際は設計部の中村・菊池、現場は工事部の橋詰、大工は山本棟梁。「みんな自分たちと年齢が近くチームのような一体感があり、とても楽しく家づくりができました」と笑顔でお話くださったN様ご夫婦。この日は設計部の中村も取材に同行。お客様が住まれた後も、こうしてお付き合いさせて頂けることが本当に素敵だなあと感じました。(記: 広報 吉川)



▲ N様と設計担当の中村



設計・施工: 相羽建設 / 撮影取材・編集: 中村・伊藤・吉川
ainohaバックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>

